

2025 年度 長岡大学シラバス

授業科目名	国際経済学 (International Economics)					担当教員	広田 秀樹 (ヒロタ ヒデキ)	
2020-23 年度 入学者 (20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL
	2037-1-23-090	専門科目	選択	2 単位	2 年次	後期		
2024-25 年度 入学者 (24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL
	2437-1-23-029	専門科目	選択	2 単位	2 年次	後期		

① 授業のねらい・概要
授業では、世界経済のエリア別の特徴と国際経済の基本理論を学習する過程で国際経済を分析できる知力を養う。具体的には、第 1 に世界経済の現状を投資環境という視点を中心にエリア別に学習し、第 2 に各国の外資導入政策、誘致インセンティブの比較について学び、第 3 に国際経済学の理論を学習する。授業内容のレベルは中級レベルである。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
専門的知識・技能を活用する能力を育成する授業
③ 授業の進め方・指示事項
専門知識の通説を理解しながらも、独自で深く考える思考力を育成するため、頻繁に質問し、自由な視点からの活発な意見を求め、討論を促すような授業を行う。活発な発言をすること。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
マクロ経済学・ミクロ経済学
⑤ テキスト（教科書）※授業で使用する。
学習資料を配布する。
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。
古沢泰治（2022）『国際経済学入門』新世社
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
国際経済の表面の現象を把握しつつも、その背後や底流にある本質を見抜き、独自の考えや解釈ができる高度な思考力を身につけてもらうような授業を目指す。
⑧ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 国際経済の大局的な現状が理解できる。 (ii) 国際経済学の理論が理解できる。 (iii) 国際経済の現状について、独自の思考から多様な提言ができる。

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 国際経済の大局的な現状の理解	国際経済の大局的な現状に関して、資料等に頼らず説明でき、授業内容を超えた学修成果を示している。	国際経済の大局的な現状に関して、資料等に頼らず説明できる。	国際経済の大局的な現状に関して、資料等を参照しながら説明できる。	国際経済の大局的な現状に関して、資料等を参照しかつ教員等の支援を得て説明できる。	国際経済の大局的な現状に関して、資料等を参照しても教員等の支援を得ても説明できない。
(ii) 国際経済学の理論の理解	国際経済学の理論に関して、資料等に頼らず説明でき、授業内容を超えた学修成果を示している。	国際経済学の理論に関して、資料等に頼らず説明できる。	国際経済学の理論に関して、資料等を参照しながら説明できる。	国際経済学の理論に関して、資料等を参照しかつ教員等の支援を得て説明できる。	国際経済学の理論に関して、資料等を参照しても教員等の支援を得ても説明できない。
(iii) 国際経済への提言	国際経済の現状と理論を理解した上で、国際経済への効果的かつ独創的な提案ができる。	国際経済の現状と理論を理解した上で、国際経済への適切な提案ができる。	国際経済の現状と理論を理解した上で、国際経済への提案が不十分ながらできる。	国際経済の現状と理論を不十分ながら理解した上で、国際経済への提案が辛うじてできる。	国際経済の現状と理論が理解できず、国際経済への提案ができない。

⑩ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	45%		30%		25%		100%
(i) 国際経済の大局的な現状の理解	20%		10%		10%		40%
(ii) 国際経済学の理論の理解	20%		10%		10%		40%
(iii) 国際経済への提言	5%		10%		5%		20%
フィードバックの方法	課題についてコメントを行い討論のベースとして紹介する。						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	イントロダクション・グローバル資本主義経済の発展過程	グローバル資本主義経済の発展過程に関する考察課題	240 分
2	世界のエリア分析の手法	エリア分析の手法、Past・Present・Future-Thinking の応用問題	240 分
3	エリア・スタディⅠ（中国）	中国経済に関する考察課題	240 分
4	エリア・スタディⅡ（南アジア）	南アジア経済に関する考察課題	240 分
5	エリア・スタディⅢ（中東）	中東経済に関する考察課題	240 分
6	エリア・スタディⅣ（欧州）	欧州経済に関する考察課題	240 分
7	エリア・スタディⅤ（米国）	米国経済に関する考察課題	240 分
8	開放経済と外資導入	外資導入の効果に関する考察課題	240 分
9	外資導入と誘致インセンティブ	独自の誘致インセンティブを考案する課題Ⅰ	240 分
10	誘致インセンティブの国際比較	独自の誘致インセンティブを考案する課題Ⅱ	240 分
11	国際経済学の理論Ⅰ	国際経済学理論の形成の背景を考察する課題Ⅰ	240 分
12	国際経済学の理論Ⅱ	国際経済学理論の形成の背景を考察する課題Ⅱ	240 分
13	国際経済学の理論Ⅲ	国際経済学の既成理論と現状のギャップを考察する課題Ⅰ	240 分
14	国際経済学の理論Ⅳ	国際経済学の既成理論と現状のギャップを考察する課題Ⅱ	240 分
15	まとめ	人間・人類に幸福をもたらす国際経済システムを提言する課題	240 分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL を採用する。授業内容をベースにして、独自に調査、考察する過程で本質を見抜き、独創的な提案ができる高度な思考力が身につく授業を目指す。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性